

読者の声

155 秋号を読まれた方から、アンケートはがきで感想をいただきました。その一部をご紹介します。このコーナーに掲載された皆様には専大グッズを進呈いたします。

なぜ育友会ができたのか、会報『育友』の過去の資料を見ることができて参考になりました。また就職特集を読み、「売り手市場」と言われた就職戦線でしたが、大企業への就職は狭き門であることを痛感しました。奈良・Nさん

会報『育友』の過去の資料からも、親が子を案ずる気持はいつの時代も同じだと感じますね。(川上編集委員)

就職関係の内容については支部懇談会でも話を聞きましたが、就職特集の記事は再確認の意味で参考になりました。60周年座談会も、誌面でしか会えない人の話を聞けてとても良かったです。新潟(長岡)・Aさん

就職懇談会等に出席できなかったご父母の方々にも、特集記事がお役に立つのではないのでしょうか。(川上編集委員)

就職懇談会ダイジェストはとても参考になりました。単位不足でもう1年お世話になることがわかっているので、現4年生ですが、就活はこれからです。親にとっては参考になることがたくさんありますが、離れて暮らしている子どもに、これらの内容をどのように伝えるか難しいところです。伝えたいことはたくさんあるのに、口を出しすぎるのもどうかと。親御さんはどのように就活している子供さんに関わっているのでしょうか。静岡(浜松)・Sさん

こんな時、支部懇談会に気軽に参加し、知らない親同士でぐっばらんに話し合えるといいですね。(川上編集委員)

子供を通じてしか大学の様子がわからないので、いつも楽しみに読んでいます。4年生なのでもう何回もないかと思うと寂しいです。この前の学祭も友達が出ないからといって子供は見に行きませんでした。あとで行ってあげれば良かったと思うのでは?と思います。神奈川東・Iさん

会報『育友』をご愛読ありがとうございます。今後も、日々頑張る専大生の様子をお伝えしたいです。(川上編集委員)

専修コミュニティに寄稿された高須さんの文章を読み、素直で誠実そうな人柄がうかがえました。スポーツで華々しく活躍したり、成績がものすごく優秀でなくとも、授業や部活動、サークルに真面目に取り組んだり、アルバイトを通じて社会勉強したりと、目立たなくても頑張っている多くの学生さんの思いを聞いたような気がしました。またお母様の言葉も、自分も同じように思うだろうと共感でき、思わず泣いてしまいました。会員の皆さん、特に遠い地方からお子さんを送り出した方々は、記事を通じて、我が子の学生生活に思いを馳せていることと思います。そう思うと会報『育友』の役割はとても重要なものだと思います。

千葉西・Kさん

学生のフォローに熱心な専修大学に通わせているから安心と
思っていただけの『育友』の作成に努めます。(野口編集委員長)